東急子ども応援プログラム

2022年度（第2回）
完了報告書

2022年度（第2回） 東急子ども応援プログラムを終えて

ごあいさつ

東急子ども応援プログラムは、子どもたちやその家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境を目指して、東急線沿線で子どもを取り巻く社会課題に向けた活動をする団体に１年間の助成をするプログラムとして、2020年7月にスタートしました。東急グループの存在理念「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する」のもと、当社も地域社会の一員として、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながる活動を応援したいと考えています。

2022年度は、企画立案時から新型コロナウイルス感染症へのさまざまな対応を織り込んでいただき、対面で、オンラインで、在宅で、活発な活動が行われました。個性あふれる12団体の活動成果をご覧いただければ幸いです。

東急株式会社　東急子ども応援プログラム事務局

2022年度選考にあたって　選考委員長の選後総評より

今回の応募は、子どもの貧困問題、障がいをはじめさまざまな困難を抱える子どもたちへの支援活動が目立った。それだけ公行政が対応できていない、隙間の大きさをも物語る。そうした子どもたちへの支援を行うボランティア団体の活動の意義が、応募書類からもひしひしと伝わる。特に外国にルーツを持つ子どもたちの困難な状況を訴え、その支援を行う活動がいくつか見られた。選考委員会でも、日本社会で見落とされがちなこの問題の重要性が議論された。採択案件でみると、新規案件で2件、継続案件で1件が入っている。また子どもの居場所も新規4件、継続1件とテーマでは多いが、不登校の子どもたちの居場所や、子ども食堂、子ども商店会、コミュニティーカフェ、ITなどその具体的内容は多彩である。障がい児サッカー教室というノーマライゼーションに向けた活動も市民活動の発想力、企画力の醍醐味が感じられる。孤立化する育児を支援する訪問子育て支援も公行政では手が届かない点である。また音楽と稲作体験、小麦部など子どもが生産や、創造に関わる活動も生きる力、子どもの社会参画を促すものと期待される。

NPO法ができてから30年以上が経過するが、SDGs達成度において、日本が世界と比べて劣っている点にジェンダー平等、気候変動や、生物多様性とともに、17番目のパートナーシップが指摘されている。市民活動への行政、企業のパートナーシップが発展していない。それは刻々と変化する社会の課題への対応や社会の活力、そして持続可能性へも関わる大きな課題である。市民活動はそうした変化する社会の課題をいち早く捉えて問題提起する。それに呼応するアンテナを公行政も、また企業も求められる。「失われた30年」は給料が上がらないだけではなく、そういう社会の活力、問題解決への仕組みづくりが停滞していることにもある。本プログラムも、パートナーシップへの企業の寄与としてさらに発展することが期待される。

木下 勇
大妻女子大学 教授／千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

助成対象活動一覧

団体名称50音順

助成対象活動 （12件1,000万円助成）	団体名	代表者	助成対象活動エリア	助成金額
こどもたちと農を楽しむ食育活動 ～都筑こども小麦部 ▶P6	NPO法人 I Love つづき（★）	理事長 岩室 晶子	横浜市 都筑区	96万円
青葉台みらいクラブ ▶P7	NPO法人 あおば学校支援ネットワーク	理事長 竹本 靖代	横浜市 青葉区	100万円
外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援 ▶P8	一般社団法人 英会話同好会 from OTA	代表理事 寺田 一智	大田区	100万円
ひろがれ！可能性！ ～脳性麻痺児サッカー・障がい児サッカー～ ▶P9	NPO法人 OluOlu	理事長 恩田 雅子	品川区	67万円
持続可能な地域のこども支援の仕組みづくり ▶P10	こども世界テーブル	代表 奈良 直美	渋谷区	84万円
キッズディレクター （楽しいデジタルコンテンツ制作と居場所づくり） ▶P11	NPO法人 ちいき未来	理事長 江口 慎一郎	横浜市 神奈川区、 西区、中区	98万円
外国につながる子どもたちの居場所 「地球っ子教室」 ▶P12	認定NPO法人 地球学校（★）	理事長 丸山 伊津紀	横浜市 神奈川区	57万円
横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト ▶P13	Picture This Japan	代表 大藪 順子	横浜市 中区	98万円
コミュニティカフェを基地とした 子どもと大人が一緒に会社を作る事業 ▶P14	NPO法人 街カフェ大倉山ミエル（★）	理事長 鈴木 智香子	横浜市 港北区	76万円
みっけ！愉快な音楽・田んぼくらぶ： 子どもの五感を育むプロジェクト ▶P15	愉音	代表 松本 有理江	横浜市 青葉区	100万円
ジェネラルサポート“ヤングモア” ▶P16	NPO法人 YUME プラス	理事長 関口 清斗	大田区	50万円
子どもの家庭での虐待予防に有効な 「ホームスタート」事業の運営 ▶P17	ワーカーズ・コレクティブ 子育て応援チームすこっぷ	代表 北後 真智子	世田谷区	74万円

団体名に（★）印のある団体は、前年からの継続助成です。

活動履歴

2021

7月1日
公募告知開始

リリース

チラシ

ポスター

東急線車内や駅に掲出

7月 ・・・ 7月

9月 ・・・ **9月1日～15日**　応募受付（60件）

2022

1月 ・・・ **1月6日**　選考委員会
助成対象活動12件を決定

2月 ・・・ **2月7日～15日**
助成候補団体とオンラインで顔合わせ

3月 ・・・ **3月24日**　助成先公表

4月 ・・・ **4月1日**
助成対象活動スタート（～1年間）

随時 助成活動訪問

10月 ・・・ **10月**
中間報告書を受領

11月 ・・・ **11月15日～18日**
オンラインで中間インタビュー

2023

3月 ・・・ **3月31日**
助成期間終了

4月 ・・・ **4月**
完了報告書を受領

こども基本法施行・こども家庭庁発足
全てのこどもが、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す

7月1日
完了報告会 at 東京都市大学 夢キャンパス

リーダーインタビュー

子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願い、地域には温かく思いやりにあふれるさまざまな活動があります。そのような活動を支え推進する皆さんの熱い思いを伝え、活動の輪を広げたいとスタートしたリーダーインタビュー。2022年度3月までにご登場いただいた10人の皆さまです。

リーダーインタビュー Vol.1
街カフェ大倉山ミエル
鈴木 智香子さん

“主体的な参加”の先にこそ、地域の豊かな暮らしがある。
街カフェ運営10年、コロナ禍で再確認した思い

リーダーインタビュー Vol.2
せたがやチャイルドライン
田野 浩美さん

声を聴き、気持ちに寄り添うことで、子ども自身の解決力を引き出す。
コロナ禍で開設した、新たなツール「オンラインチャット」

リーダーインタビュー Vol.3
BLACKSOX
西野 耕太郎さん

健常児、障がい児、学生、社会人…地域の“全ての人”が同等に大切。
スポーツによるコミュニケーションで、豊かな心とチャレンジする気持ちを育みたい

リーダーインタビュー Vol.4
子どもセンターてんぽ
影山 秀人さん

「人に大事にされる経験」で、「自分を大切にする心」を育みたい。
居場所がない子どもに緊急避難場所を提供し、新しい生活への道筋をサポート

リーダーインタビュー Vol.5
地球学校
辻 雅代さん

外国につながる子どもたちが安心して過ごせる「居場所」を提供したい。
「いつもの時間に、いつもの場所で、みんなに会える」子ども日本語教室

リーダーインタビュー Vol.6
レスパイト・ケアサービス萌
後藤 淳子さん

「ほっと一息」を手伝い、障がい児と家族の在宅生活のQOL向上を。
家族に寄り添う「レスパイト」支援の取り組み

リーダーインタビュー Vol.7
OluOlu
恩田 雅子さん

「思い切りサッカーができる」環境で、人生を前向きに生きる力を育む。
障がい児と保護者の生きづらさ解消を目指す応援団

リーダーインタビュー Vol.8
ワーカーズ・コレクティブ
子育て応援チームすこっぷ
北後 真智子さん

こぼれる砂をすくうスコップのように、必要な人たちに届く支援を。
親子に寄り添う“家庭訪問型”の子育て支援「ホームスタート」

リーダーインタビュー Vol.9
特別対談：
「あおば学校支援ネットワーク」×「ちいき未来」
竹本 靖代さん・森 康祐さん

子どもたちのワクワク体験を生きる力に。
「働く体験」＋「表現する楽しさ」で子どもたちの学びを促す

リーダーインタビュー Vol.10
I Love つづき
中 聡美さん

小麦畑を舞台に、子どもたちの感性を育む。
都市農業と子育てを応援する畑の中のチャレンジ

リーダーインタビューはこちらからご覧ください。
https://kodomo.tokyu.co.jp/interview/

1 こどもたちと農を楽しむ食育活動 ～都筑こども小麦部

団体名：NPO法人 I Love つづき（★）

● 団体紹介

都筑区の生涯学習学級グループで環境講座の実施者が中心となり、設立しました。環境問題を自分自身のこととして受け止め、まちの活性化や健全なまちづくりのための活動を通じ地域の発展に寄与することを目的に、地域のさまざまな団体と協力しながら環境問題やまちづくりなどに取り組んでいます。（設立1999年）

● 助成対象活動の目的と概要

コロナ禍で子どもたちの屋外での活動が大幅に制限されている中、前年開始した「都筑こども小麦部」が、遠方に行かずに自然に親しめる活動として需要が大きかったため、定着・発展させるものです。２年目となる2022年は、コロナ禍でも実施可能性の高い畑での活動を中心に据えました。商品や販売促進活動は前年をベースにブラッシュアップするとともに、年度初めには子どもたち発案のイベントを募り、年間計画に加えて実践しました。

● 助成対象活動の実績

● 「都筑こども小麦部」

4月より募集開始。関係者打ち合わせ15回、活動15回、延べ100名を超える子どもたちが参加

● 都筑ハーベストでの活動

・5/21 畑での初顔合わせ
・6/25 畑で土遊び体験
・8/7 近隣マルシェイベントでの野菜＆都筑区産小麦使用クッキーの販売体験
・8/20 水あそび
・9/17 地域のお祭りで野菜＆都筑区産小麦使用クッキーの販売体験
・10/15 お芋ほり
・11/19 小麦の種まき、焼き芋
・12/17 畑で火遊び、すいとん作り
・1/21 麦踏・麦茶作り・凧揚げ、フリスビー等自由遊び
・2/18 麦踏・薪割り・畑のスープ試食
・3/18 鍋っこ遠足

①

②

③

④

⑤

⑥

①畑で土遊び体験　②お芋ほり　③麦踏　④麦茶作り　⑤小松菜収穫　⑥薪割り

この2年間の成果

コロナ禍でいろいろな制限を強いられてきた中、都筑区の財産ともいえる農業専用地区にある大きな畑を、子どもたちを解放する自由な居場所にできたことは大変ありがたかったです。今回の子ども応援プログラムの資金を活用することで、子どもだけではなくその家族や、福祉施設のスタッフ、そして当法人のボランティアスタッフまでが、子どもたちの自由な発想と行動にいろいろと気付かされ、癒やされ、大変だったこの時期に、何が必要であるかを教えられました。

2 青葉台みらいクラブ

団体名：NPO法人 あおば学校支援ネットワーク

● 団体紹介

主に青葉区の学校や地域で多様な学びの機会をつくり、自分らしく生きる子どもたちが育つ社会づくりに努めています。（設立2005年）

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちが他者との関わりを通じた学びを自分の人生や社会に生かそうとする意欲、未知の状況に対応する思考力、判断力、表現力の向上を目指し「青葉台みらいクラブ」として、以下を行いました。

・小学生が地元商店街と連携して地域とのつながりや仕事の楽しさを発見することを目的とした「子ども商店会」

・主に高校生が社会とのより良い関係づくりを図ることを目的とした「社会とつながるカフェ」

・小中学生が地域の大学や企業と連携して課題解決や価値創造力を育むことを目的とした「子ども青葉台会議」

● 助成対象活動の実績

● 子ども商店会

青葉台商店会と連携し、小学生が地域のお店で取材や働くことを体験し、映像化

7月～3月まで全14回実施、小学4～6年生の参加者延べ30名

● 社会とつながるカフェ

社会人向けボランティア講座や検討会、「オープンデイ」を開催

4月～3月まで全5回、高校生～社会人の参加者延べ53名

● 子ども青葉台会議

地域の大学や企業と連携し、アートやサイエンスを通しわくわくする体験の場を創出

11月～3月まで全4回、小中学生の参加者延べ85名

①子ども商店会 チラシ
②子ども商店会動画撮影編集講座
③働く体験
④ふしぎな紙？でさくらさくあおばの森をつくろう
⑤社会とつながるカフェ支援者向け講座

この1年間の成果

さまざまな分野のプロフェッショナルが、子どもを大きく成長させる豊かなコンテンツを生み出して、子どもたちの成長を応援してくれました。そして、この活動の成果は、子どもたちの成長にとどまりませんでした。協力者や指導者が地域で働く大人たちだったので、活動日に限らず顔を合わせることもあり、地域が安心できるまちであることを子どもたちが認識したこと。商店や企業側も子どもに目を向ける機会ができて、子どもを風景の一部ではなく、地域の一員として見ることができる大人を増やせたこと。当団体単独ではなく、地域の関係者を巻き込み、偏りなく地域のリソースを生かした活動になったことは、とてもありがたく、そしてこの上なくうれしいことです。

3 外国にルーツを持つ子どもたちのための学習支援

団体名：一般社団法人 英会話同好会 from OTA

● 団体紹介

東京都で7番目に外国人の多い大田区※ において、外国にルーツを持つ子どもたちと地域との共生や、多様化する社会へ貢献する人材育成など、多文化共生への土壌づくりを目的に英会話教室、地域イベントの開催、学習や就労への支援といった3つの事業を行っています。（設立2014年）

※東京都総務局による令和3年の外国人人口統計より

● 助成対象活動の目的と概要

外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く貧困・言語障壁・所属コミュニティーの少なさといった課題の解決だけでなく、「質の高い教育をみんなに」を目標に、学習支援の他、非認知能力を伸ばす支援、心を開くことができる居場所としての役割も担う、外国にルーツを持つ子どもたちを支援する活動です。
言葉の壁や貧困などによって狭まっている選択肢が広がるよう、一人ひとりの将来を支援します。

● 助成対象活動の実績

- **外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援（教室・訪問形式）**：週2回実施
- **支援員ミーティング（オンライン）**：月1回実施

①学習支援教室の募集チラシ　②③学習支援の様子　④さまざまなツールを使って学習

この1年間の成果

東急子ども応援プログラムの助成をいただき、予期した通りの、外国にルーツを持つ子どもたちのニーズを実際に発見できました。子どもたちは千差万別で、あと一押しで自分の居場所をつくれる子と、勉学に対して最後まで興味を示さない子もいました。そういった子どもたちに、大学生をはじめとするボランティアが接し、試行錯誤のもとで課題を発見し、お互いが成長したことが最大の成果です。この経験を後進に伝え、または将来的に子どもたちが支援員として戻ってくること、それまで支援し続けることが今後の展望です。

4 ひろがれ！可能性！
～脳性麻痺児サッカー・障がい児サッカー～

団体名：NPO法人 OluOlu

● 団体紹介

障がい児がスポーツを通して心身の健康と社会性の成長を得て、自らの人生を切り開く力を身に付けることを目指し、障がい児のサッカー教室事業などを行っています。また、ボランティアなどで活動に参加する大学生や関係者が多様性について考えるきっかけになり、得た経験を社会に還元することも目指し活動しています。（設立2018年）

● 助成対象活動の目的と概要

障がい児の身体的な機能の向上と精神的な成長を期待し、特性に寄り添いながら活動するサッカー教室の継続的な運営と、子どもたちが新たなことに挑戦し自己肯定感を高め、自らの人生を切り開く力を身に付けることを目的としたスポーツイベントを開催しました。また、ボランティアや関わる人を拡充しました。活動に関わった人の障がいのある人に対する考え方と行動が変化し、ここで得た経験や思いを、社会に還元していくことも本活動の狙いです。

● 助成対象活動の実績

● CPサッカー・障がい児サッカー教室

4月～3月まで全22回開催、平均参加者8名。体験参加10名中、7名が新規加入

● スポーツイベント

11/27「障がい児なわとび（長縄・短縄）教室」参加者9名

● 指導者の育成

サッカーをインクルーシブなスポーツとして捉えた講習会（障がい児向け練習メニューや指導の留意点など）や救命講習など、全5回受講

● ボランティアの拡充

目標5名増員のところ新規ボランティア（大学生）31名が参加。ボランティア数延べ85名

● 勉強懇親会

レッスン終了後のスタッフ勉強会　全23回実施

その他、教室の質・満足度向上に向けた勉強会　全3回実施

①

②

③

④

⑤

①みんなでダッシュ　②フェアな心を育む手作りグリーンカード　③青空の下で試合　④なわとびに挑戦　⑤参加者募集チラシ

この1年間の成果

「ひろがれ！可能性！」という想いで進めてきた今年度の活動。生活のさまざまな場面で、できないことや不自由を感じることが多い障がい児とその保護者にとって、できることが増える、可能性がひろがると感じられることは、大きな喜びになり、自信につながります。活動に参加する子どもたちは、毎月のサッカー教室、そして単発スポーツイベントでの挑戦を経て、一人ひとりのペースで、心身共に着実に成長を遂げました。私たちは継続して OluOlu の活動を行い、参加者、保護者、ボランティアなどが活動で得た経験や気付きを、社会に還元することを願い、今後も活動を展開していきます。

5 持続可能な地域のこども支援の仕組みづくり

団体名：こども世界テーブル

● 団体紹介

渋谷区において子どもたちが違う世界を知ることで自分の世界を広げられるよう、多世代交流の居場所「みんなの世界テーブル」を開催しています。世界の国々の料理や遊びから「五感で感じる」「創る」「学ぶ」などの体験を通して生きる力を育み、子どもを軸とした多世代コミュニケーションの場で誰かとつながることで地域を支える活動につなげます。（設立2018年）

● 助成対象活動の目的と概要

支援をする人受ける人といった枠組みではなく、コミュニケーションを通してお互い支え合い、学び合い、貢献し合う地域づくりを目指します。
子どもの居場所「みんなの世界テーブル」を開催し、その担い手ともなる大人の居場所も併設。また、食や環境を考えるため、冊子を通じた情報発信や農業体験などのイベントを行いました。

● 助成対象活動の実績

● 子どもの居場所活動を月に1回から2回に変更し、実施

料理と遊びに加え、学習（実験）支援、アートやスポーツなどの体験講座、親子参加型イベントを実施

● 担い手（ボランティア）の育成

学生サークルとの連携や共同開催によるボランティアの拡大と育成、企業や自治体との連携により多世代交流を実現

● 子どもを支えるための大人の居場所づくり

大人カフェの開設、保護者向け個別支援、居場所づくりワークショップの開催

● 食や環境を考えるイベントの開催

九十九里での玉ねぎ掘りと生産者との交流、親子食育イベントの開催、食や環境を考える冊子の発行

● 地域のコミュニケーションの場づくり

外国にルーツを持つ小学生や大人による食や文化の交流、地域交流会への参加、地域のフードロス解消への働きかけを実施
参加者は子どもたち延べ306名、学生ボランティア延べ131名、大人（スタッフ以外）延べ131名

①

②

③

④

①みんなの世界テーブル　②スタディ（実験）キッチン　③子どもの居場所づくりと多世代交流　④九十九里で玉ねぎ掘り

この1年間の成果

一番の成果は、さまざまな新しい活動に挑戦できたことです。郊外活動をはじめ、プロの方々をお呼びしての活動、大学生と共同で活動することなど、多彩な活動が実現できました。その中で、内容により対象となる子どもやその家族のニーズがさまざまであることや、「子どもたちを取り巻く環境」の変化や問題点にも気が付くことができ、地域の中で必要とされている子ども支援の方向性も見えてきました。多くの方々と関わって活動できたことで、地域の方々や団体、行政ともつながり、一団体としての活動であっても、社会に影響を与え貢献できること、その可能性と責務を実感しております。
頂きました多くの貴重な活動を財産として、持続可能な子ども支援の仕組みづくりの活動をより広く深めていきたいと思っております。

6 キッズディレクター（楽しいデジタルコンテンツ制作と居場所づくり）

団体名：NPO法人 ちいき未来

● 団体紹介

横浜市において地域の活性化に寄与することを目的とし、都市と中山間地域の交流による地域活性化支援事業、市民・青少年に向けて多様なカルチャーをツールとした地域コミュニティーづくり事業などを行っています。（設立2017年）

● 助成対象活動の目的と概要

不登校など困難を抱えた状況にある子どもたちに向け「キッズディレクター」サークルを開設し、映像ワークショップやプログラム学習を行いました。デジタルコンテンツを活用して地域や他の学生とつながり、自ら創造した作品や思いを社会に発信することを楽しむことで自己肯定感を高め、共同の意識をつくり、子どもたちが前に進むための居場所となることを目指します。

● 助成対象活動の実績

● 子どもの居場所「キッズディレクター」サークル

毎月第2・3・4金曜日の10時～17時、映像ワークショップを実施

● 地域コミュニティーとの連携

公立小学校でのセキュリティー講座や個別支援学級などに向けた映像授業の実施、「映像のまち・かわさき」推進フォーラム・寺子屋事業でのワークショップ開催

①「キッズディレクター」募集チラシ　②学校での映像授業の様子　③映像ワークショップの様子

この1年間の成果

この活動の成果は、機材が充実したことです。iPadで撮影から編集までが簡便にできることは、この活動前には考えていませんでした。編集・アニメ制作のアプリもこの活動で知ることができ、iPadでの映像ワークショップをさらに充実できたことで、GIGAスクールでのサポート、個別支援級のサポートにつながりました。映像ワークショップを学校の授業として取り入れてもらい、団体のミッションが進みました。さらにアプリや機材の使い方等を研究しながら、ワークショップ内容をブラッシュアップできました。

7 外国につながる子どもたちの居場所「地球っ子教室」

団体名：認定NPO法人 地球学校（★）

● 団体紹介

外国人および日本人に多文化交流を推進する事業を行い、広く国際協力の推進に寄与することを目的として、日本語教室、地球っ子教室、多文化交流などに取り組んでいます。（設立2000年）

● 助成対象活動の目的と概要

親の都合で来日した外国にルーツのある小中学生を対象に、日本語の指導、学習支援、居場所の提供を行う「地球っ子教室」を安定的に開催し、子どもたちの学びを支え、安心・安全な居場所をつくるものです。コロナ禍でも、毎週同じ曜日・同じ時間・同じ場所での対面教室とオンライン教室の開講を継続。支援者が現役社会人や学生といった若手層や地方在住者にも広がり多様化してきたため、支援者をサポートするチューター制度も実践しました。

● 助成対象活動の実績

● 地球っ子教室の運営

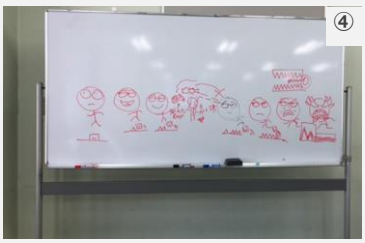
・「土曜教室」：4月～3月　全35回開催　参加者延べ 499名、支援者延べ 467名
・「春休み・夏休み教室」：7日間（7/27～29、8/18・19、3/29・30）開催
　参加者延べ 対面100名、オンライン51名、支援者延べ 140名
・漢字学習会「漢字王決定戦」：10/1、3/4開催　参加者29名、支援者延べ 44名

● 支援者の連携およびサポートのためのチューター制度の充実

・ベテランと新人がペアを組んでの支援、オンライン指導支援　全36回
・教室の質向上に向けた「教室記録」の作成と教室後支援者交流「今日の子どもとの時間」の設置
・支援者内部学習会「子どもの記録を読む会」　全2回（8/20、23）　参加者9名
・地球っ子教室大ミーティング（対面・オンライン）　6/11　参加者15名

● 外部有識者による内部研修および運営委員会

・内部研修　1/7「みんなで考えよう。算数・数学につなげるための日本語支援」　参加者22名
　3/25「外国につながる児童生徒への日本語支援～教科学習につなげるために」　参加者15名
・運営委員会　全3回（7/13、12/16、3/22）



①子どもたちの手書き看板　②夏休み教室の様子　③④子どもたちにとって安全な居場所（将棋が好きな4年生と気になる2年生、子どもたちの落書き）

この2年間の成果

地球っ子教室では「いつもの時間に、いつもの場所で」外国につながる子どもたちの日本語・教科学習を支える居場所として毎週土曜日午後、地球っ子教室を開催しています。
コロナ禍の大半の期間、継続助成していただけたため、教室開催が困難になったときも、ほぼ休むことなく子どもたちとつながることができました。密にならないよう教室を多めに確保したり、オンライン教室につながる勉強会をしたり、イベントをハイブリッド開催するために必要な文房具や機材をそろえることもできました。コロナ禍でも地球っ子教室を継続開催できたことが一番の成果です。今後も、コロナ禍に培った良い点はそのままに子どもたちとの時間を大切にしていきます。

8 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

団体名：Picture This Japan

● 団体紹介

写真をツールとした自由な表現活動を通して、人生に必要不可欠な自己肯定感を参加者自ら育成すること、また一般社会での多様性に対する理解を深めるため、マイノリティーと呼ばれる人たちの世界を内側から可視化し、より良い多文化共生社会へ向けた対話の機会を提供することを目指しています。（設立2018年）

● 助成対象活動の目的と概要

言語にとらわれない写真というツールによって、外国につながる10代の子どもたちの生きる力や自己肯定感の向上を目的とした表現活動や居場所の提供、多文化共生社会への理解促進のためのワークショップや写真展の開催、写真集「横浜（koko）」の寄贈を行いました。違いが強みになることを可視化することで、外国につながる子どもたちの希望や活躍の場が広がることを目指します。

● 助成対象活動の実績

● 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト

・ワークショップ　全8回（8/28、9/11、25、10/9、23、11/6、27、12/11）開催、中高生の参加者13名
・1/4　写真展オープニングイベント
・写真展　6月～2月の間に6施設、計78日間開催

● オンラインギャラリー構築のための会議

横浜インターナショナルユースフォトプロジェクトの卒業生5名と、アドバイザー3名、全8名で全19回実施

● 写真集『横浜（koko）-「外国につながる」ではひとくくりにできない中高生の作品集』寄贈

東横線沿いの学校図書、国際交流施設、学習支援等を行うユースの居場所事業施設等、18施設全20冊寄贈

①②横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト 象の鼻テラス写真展　③発表の様子　④オンラインギャラリー構築チームの活動発表
⑤写真家レナータさんのポートレイト講座

この1年間の成果

この1年の一番の成果は2つあります。1つは、3年ぶりに写真展のオープニングイベントを開催できたことです。イベントに来た中高生とその家族が、誇らしげに作品を眺めトークにも参加していたのがとても印象的でした。2つ目は、オンラインギャラリーの構築がかなったことです。参加年度が異なるプロジェクト卒業生たちが一緒になってつくったこのプラットフォームを活用し、多様な視点からの写真と言葉で、誰にも代弁されずに発信していきます。すでに海外にいる卒業生たちは「横浜につながる人」として、外からの情報提供をしてくれる予定で、とても楽しみにしています。

9 コミュニティカフェを基地とした子どもと大人が一緒に会社を作る事業

団体名：NPO法人 街カフェ大倉山ミエル（★）

● 団体紹介

横浜市港北区大倉山を中心に、市民による地域のまちづくりの推進に寄与することを目的に、コミュニティカフェの運営や地域情報の発信、活動団体同士をつなぐ活動や支援などを行っています。（設立2009年）

● 助成対象活動の目的と概要

前年の助成をきっかけに、子どもや親たちの自律的な企画や運営が実践されつつあり、新しい地域のつながりが生まれています。本活動は、前年の「放課後ミエル」に参加する小学生から発案のあった「コミュニティカフェを基地とした子どもと大人が一緒に会社を作る事業」に挑戦するプロジェクトです。学校でも家庭でもない第三の居場所で、子どもと大人が出会い、対話し、共に決断し、実行し、考えることを通して社会や地域とつながりを深めることを目指します。

● 助成対象活動の実績

● 放課後ミエル　4月～3月　全17回

①作戦会議
②逃走中　逃走者（子ども）33名、「放課後ミエル」最大規模での開催！
③活動チラシ配布（警察への「道路使用許可書」申請、駅前配布などを初体験）
④夏の「アートジャム」で駄菓子屋体験（仕入・値付け・ポップ作成・販売）
⑤ミエルキャンプ
⑥会社作戦会議「放課後ミエルとして何をする？」
⑦釣り入門企画@鶴見川
⑧「駄菓子屋」を学ぶ会
⑨横浜アリーナ「ヨコアリくんまつり」で駄菓子屋出展
⑩天文台職員と一緒に「月食を観察する」会
⑪脳科学研究者の大学教授と共に書籍「運動脳」に関する講義受講
⑫冬の「アートジャム」で工作
⑬（放課後ミエル保護者対象）映画「夢みる小学校」自主上映会
⑭「ウクライナ戦争」を考え、世界情勢に目を向ける会
⑮オリジナル武器を工作し「チャンバラ大会」
⑯「トルコ・シリア大地震」国際緊急援助隊の報告会
　※第一陣として現地に赴いた方を招き、救助活動、国際援助の仕事について学ぶ
⑰「マインクラフト」について何でも聞ける会
　※マインクラフトに詳しい小学6年生が講師として保護者に教える、関係逆転のイベント

「放課後ミエル」チラシ

釣り入門企画@鶴見川

放課後ミエルの様子

この2年間の成果

「子どもと考える子どもの自由な居場所」をテーマに2年間活動してきました。子どもの「やってみたい」に対して「それいいね」と言ってくれる大人がいて、手伝ってくれたり、一緒に悩んでくれる仲間がいる、そんな居場所です。
最初は何をやればいいか分からなかった子たちも、周りの子がどんどん「やりたい」をかなえていくのを見て、「じゃあこんなことできるかな？」と考えられるようになってきました。また、地域の人の助けを借りるのもうまくなってきました。一人で難しいことは、得意な人に助けてもらう。子どもも大人もそんな発想ができるようになり、より活動の幅が広がるとともに、地域とのつながりも増えてきました。

10 みっけ！愉快な音楽・田んぼくらぶ：子どもの五感を育むプロジェクト

団体名：愉音

● 団体紹介

子どもたちが目の前で素晴らしい演奏を聴くことで感じる驚きや喜びが豊かな人生を育むことにつながると信じ、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念のもと、心身の健康や地域のつながりが増すきっかけとなるバリアフリーコンサートや「音楽遊びの会」、小中学校での学校コンサートを行っています。（設立2018年）

● 助成対象活動の目的と概要

新型コロナウイルス感染症と共に歩む社会にあっても子どもたちが音楽への興味を育み、心豊かな時間を持つ機会を創出するものです。地域社会とつながり、多様な価値観に触れることで地域への愛着や安心感を育むため、音楽と稲をキーワードに「寺家ふるさと村で遊ぼう」「音楽を聴かせながら稲を育てよう」といった稲づくり体験やYouTube配信、バリアフリーコンサートを行いました。

● 助成対象活動の実績

- **寺家ふるさと村で遊ぼう**
  5/29「田植え」　7/28、29「夏のお散歩・お絵かき会」　10/30「稲刈り」　参加者延べ335名
- **音楽を聴かせながら稲を育てよう**
  4/28、30、5/7、8、14　キックオフイベント　124家族参加、185名の子どもにバケツ稲栽培セット配布
- **Let’s come together！ 0歳からのバリアフリーコンサート**
  7/13、10/6、12/24に開催　延べ60家族157名参加
- **収穫祭**
  12/10　参加者11家族28名

この他、キックオフイベントやバリアフリーコンサート、田植えやお絵かき会の様子をYouTubeやHPで発信

①寺家ふるさと村で田植え　②寺家ふるさと村で収穫祭　③夏のコンサート　④夏のお散歩　⑤夏のお絵かき会

この1年間の成果

「みっけ！愉快な音楽・田んぼくらぶ」では、里山の景色を色濃く残す寺家ふるさと村の田んぼでの田植えから稲刈りまでを経験し、夏のお散歩・お絵かき会では大きなロール紙に皆で絵を描き、収穫祭では収穫したお米を食べました。自宅では籾の芽出しから稲を育て、毎日食べるお米がどのように育つのかを日々目の当たりにすることで、子どもたちの食べるものへの興味が触発されました。0歳からのバリアフリーコンサートでは、コンサートホールで本格的な音楽会を目の前で聴き「音楽会にまた行く！」「自分も弾いてみたい！」など、音楽に興味を持った子どもたちの声が寄せられました。
東急子ども応援プログラムのご支援をいただき、とても充実した活動を参加費無料で行うことができました。ありがとうございました。

11 ジェネラルサポート“ヤングモア”

団体名：NPO法人 YUME プラス

● 団体紹介

大田区において、子どもたちが安心できる地域の居場所をつくり、人と人の交流を取り戻したいという思いのもと、子どもたちが持っている力に自分自身が気付き自己肯定感が向上するよう、学習支援や居場所支援、福祉イベントの開催、支援員の育成などを行っています。（設立2019年）

● 助成対象活動の目的と概要

地域や学校、関連施設と連携を図り「子育て見守りネットワーク」の構築を目指します。既存の仕組みでは支援が行き届かない子どもや保護者のセーフティーネットとなり子どもたちが安心できるよう、悩みごとの相談や学習支援が受けられる地域の居場所づくりを行いました。

● 助成対象活動の実績

- **自習室：**毎月第2・4火曜日解放（コロナで閉室日あり）　利用者延べ40名
- **相談室：**来所相談10名、SNSによるオンライン相談11名
- **行政等他機関からの紹介による利用：**10世帯
- **近隣学校・機関からの紹介による利用：**2名

①

②

⑤

③

④

① 解放している自習室の様子
② 大学生ボランティアと一緒にイベントの準備
③ 相談室の様子。オンライン相談はパソコンで行う
④ ジェネサポ　ハロウィンパーティー
⑤ ジェネサポ看板

この1年間の成果

コロナ禍において、さまざまな活動制限や人と人との関係が希薄となってしまう環境が、誰のせいでもなく生まれてしまい、大きなダメージと影響を受けたのは未来ある子どもたちです。子どもたちとどうにかつながりたい！という思いからSNS相談を始動しました。会えない関係性でありながらも「寄り添う」、それがSNS相談です。しかし「寄り添うとは」と、活動を通してとても考えさせられました。私たちは「寄り添う」から「心の整理にお供する」という考え方に変えました。それが合っているかは分かりません。SNS相談は相談員からすれば、文字でのやり取りだからこそリスクも伴います。でも、相手は話した内容を読み返したりしているかもしれない。私たちは友人からもらった手紙のような役割をしたいと思っています。

12 子どもの家庭での虐待予防に有効な「ホームスタート」事業の運営

団体名：ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ

● 団体紹介

子どもが安心してのびのび育つには、子育て時期に親が心身ともに余裕があり子どもといることが楽しいと思えることが大切だと考えています。親子サロンや一時保育、家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」などを行い、世田谷の「地域の親」として子育てを応援しています。（設立2009年）

● 助成対象活動の目的と概要

世田谷のすべての子どもが親から虐待されることなく健全に育つことを目指し、孤立やコロナ禍での不安など育児に困難を抱える家庭一つひとつに丁寧に家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」を行えるよう、ホームスタートの認知拡大と運営の安定化、ホームビジターの養成・スキルアップを図るものです。

● 助成対象活動の実績

- 家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」　20家庭へ訪問
- ホームスタート説明会　10/14、12/9　受講者9名
- ホームビジター養成講座　8日間（1/6、13、18、27、2/3、17、24）36時間実施　受講者5名
- ホームビジタースキルアップ講座＆交流会　5/13、8/24　受講者10名
- 子育てスキルアップ講座「発達凸凹のお子さんを理解するために」　3/28　参加者21名

①すこっぷリーフレット
②スキルアップ研修
③ホームビジター養成講座
④子育てスキルアップ講座風景

この1年間の成果

ホームビジター養成講座の中で、イギリスの児童心理学者Dr.ウイニコットの「beingはdoingに先行されなければならない」という話が出ます。ところが今の時代、being（生まれてくれてありがとう）よりdoing（歩いた、100点をとった等）がついつい先行されがちではないでしょうか。私たちホームスタートすこっぷは、地域の親として利用家庭のbeing（子を産み育ててくれてありがとう）を大切にすることから、子の最善の利益を守ります。これまではどのようにして活動費を生み出すかが課題でしたが、今年度は東急子ども応援プログラムの助成のおかげで、のびのびと訪問活動を進めることができました。

プログラム概要

子どもは一人ひとり多様な可能性を持っています。
しかし、慌ただしい生活時間や限られた人間関係の中で、可能性の芽がのびのびと育ちにくい環境があり、
さらには、いじめ、引きこもり、家庭内暴力、経済的に困窮する家庭状況や、
不安や困りごとなどを抱えている子どもたちもいます。
地域には、そうした子どもたちをサポートする、家庭や学校以外での大人たちの活動があり、
子どもたちや家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートしています。
このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って、
皆さまの活動を支援します。

1 助成対象となる活動

子どもを取り巻く社会課題の解決を目指し、子どもたちの幸せを支える地域の活動

活動例

1.子どもが安全で安心できる場を提供する活動

・居場所づくりや子ども食堂などの活動、シェルター活動
・コロナ禍の環境変化により生きづらさを抱えた子どもたちの支援に関わる活動　など

2.障がいや難病とともに暮らす子どもと家族を支援する活動

・外出支援の活動、入院児の学習支援の活動、きょうだい支援の活動　など

3.外国にルーツを持つ子どもたちの支援や多文化共生を目指す活動

・日本語学習サポート、進学支援、キャリア教育、
日常生活に関する情報提供サポート（例「やさしい日本語」の活用）　など

4.子どもの「生きる力※」の向上につながる活動

※困難な環境でもしなやかに生きていく力、子ども自ら好奇心を持って考えて行動していく力

・文化・芸術・スポーツなどを通じて生きづらさや困難を乗り越え、生きる力を育む活動、
地域や社会を知る活動、自然を体験して遊び学ぶ活動　など（塾や習い事を除く）

5.子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニティーをつくる活動

・支援者育成、ボランティア育成、ネットワーク支援、普及啓発活動　など

6.その他、本プログラムの趣旨に合致する活動

※このプログラムでは、活動の発展やステップアップにつながる取り組みを期待します。
※本プログラムの第1回助成対象活動も応募が可能です。

2 助成対象となる団体

・民間非営利団体であること。法人格は問いません
（特定非営利活動法人、一般・公益法人、任意団体など。任意団体の場合は会則があること）

・助成対象となる活動地域が東急線沿線の市区内※にあること（主たる事業所はそれ以外でも構いません）

※東京都：品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・町田市
神奈川県：横浜市 神奈川区・西区・中区・港北区・緑区・青葉区・都筑区　川崎市 中原区・高津区・宮前区　大和市

・応募締切日（2021年9月15日）に団体設立後2年以上の活動実績があること

・団体のホームページやSNSなどで活動や団体概要が公開されていること

・助成開始後、報告書の提出や報告会などへの出席に同意すること

・団体の目的や活動が政治・宗教などに偏っておらず反社会的勢力とは一切関わっていないこと

3 助成期間・助成額・応募受付期間

助成期間	2022年4月～2023年3月（1年間）
助成額	1件あたりの助成額：50～100万円（合計10件程度に助成予定）
応募受付期間	2021年9月1日（水）～9月15日（水）必着

4 選　考

選考委員会による書類選考を行います。選考委員会は、学識経験者、NPO実務経験者、主催企業担当者で構成します。

1 選考委員会

◇ 選考委員長

木下 勇　大妻女子大学 教授／千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

◇ 選考委員

・岩田 美香　法政大学 現代福祉学部 教授

・桑子 敏雄　一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事／東京工業大学 名誉教授

・原 美紀　認定特定非営利活動法人 びーのびーの 副理事長・事務局長

・多田 和之　東急株式会社 社長室長

(所属は選考委員会当時のもの)

2 選考基準

①プログラム趣旨との適合性　子どもたちを取り巻く現在の課題に向き合い、子どもが安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりにつながる活動か

②子どもの視点　子どもの人権と主体性を尊重し、子どもの視点に立った活動か

③実現可能性　目的、目標と計画が具体的で、スケジュール・体制・予算が適切か

④地域性　活動対象地域の課題と現状の把握に基づき、地域の関係者と連携し、地域に根差した取り組みが期待できるか

⑤継続性　助成期間終了後も継続的な活動が期待できるか

※以下は本プログラムの第1回助成対象活動の場合のみ

⑥発展性　前回の助成対象活動の状況を踏まえ、助成を継続する必要性が認められ、それにより活動の発展が特に期待できるか

5 主催・協力団体

主催：東急株式会社

企画・運営協力：特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

事務局後記

助成対象団体の皆さま、活動を支援・参加してくださった皆さま、1年間ありがとうございました。活動視察や中間報告、リーダーインタビューなどを通して改めて皆さまの活動への姿勢と想いに感動しました。腰をかがめ、子どもの瞳を真っ直ぐ見つめ、耳を澄まして子どもたちの意見を聞く。子どもの人権と主体性を尊重し、子どもの視点に立った活動をされている団体の皆さまに改めて感謝いたします。終わりのない課題ですが、皆さまの活動が地域に開かれていく、抱えて悩まないように“横とつながっていく”ことが大事だと思います。引き続きよろしくお願いいたします。

東急子ども応援プログラム事務局　岡田・迫園・石上・近藤

東急子ども応援プログラム

子どもたちの幸せを支える地域の活動を応援します。

東急株式会社
社長室 ESG推進グループ
東急子ども応援プログラム事務局

〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6
Email：kodomo@tkk.tokyu.co.jp

発行：2023年7月